

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

株式会社 サンナマ  
〒721-0953 福山市一文字町19番12号  
TEL 084-954-1661  
FAX 084-954-1724

配合計画者名 \_\_\_\_\_

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日, 9月21日～12月10日, 左記以外の期間については備考欄に記述(標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スラング又はスラングフロー cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項(任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は結合材比の目標値の上限	- %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28日		流動化後のスラング又はスラングフローの増大量	- cm
空気量	4.5 %				

## 使用材料

セメント	生産者名	麻生セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	-	
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> O eq %	-
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	%	-
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>	微粒分量の範囲%
				試験方法			絶乾表乾	
細骨材①	砕砂	笠岡市生江浜字柚ノ木	A	モルタルバー法	2.5mm以下	2.70	2.50 2.64	3.0±2.0
細骨材②	石灰砕砂	大分県津久見市上青江	A	モルタルバー法	2.5mm以下	2.83	2.50 2.64	3.0±2.0
細骨材③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材①	砕石2010	笠岡市生江浜字柚ノ木	A	モルタルバー法	10mm～20mm	6.98	2.69 2.71	0.5±0.5
	砕石1005	笠岡市生江浜字柚ノ木	A	モルタルバー法	5mm～10mm	5.95	2.69 2.71	0.5±0.5
粗骨材③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材④	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	シカボゾリス15L	AE減水剤(標準形I種)					Na <sub>2</sub> O eq %	0.5
混和剤②	製品名	-	種類	-			%	-
混和剤③	製品名	-	種類	-			%	-
細骨材の塩化物量	-	%	水の種類	上水道水・上澄水	目標スラッジ固形分率	-	%	-
回収骨材の使用法	細骨材	-	粗骨材	-	スラッジ水の使用方法	-	-	-

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤					
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③			
330	-	-	175	580	249	-	484	483	-	-	2.31	-	-			
水セメント比	53 %			水結合材比			-				細骨材率			46.8 %		

備考	骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合は、修正標準配合として次に示す期間の間、混和剤の単位量のみ変更			骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②	70.0:30.0		
	夏期6月11日～9月20日+20%、冬期12月11日～3月10日-20%				粗骨材①:②	50.0:50.0		

# 配合計算書

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スラブ又はスラブフォーム cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 B B
-----	----------------------	------------	--------------------------	----------------------	---------------------

指定事項 AIR=4.5% 材齢28日

(1) 変動係数(v)	当工場の実績により v = 10 %				
(2) 配合強度(m)	$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 33.8 \text{ N/mm}^2$ <p style="text-align: right;">よって m = 33.8 N/mm<sup>2</sup></p>				
(3) 水セメント比(W/C)	$m = -15.6 + 26.3 \times C/W$ $W/C = 26.3 \div (33.8 + 15.6) \times 100 = 53 \%$ <p style="text-align: right;">W/C = 53 %</p>				
(4) 単位水量(W)	当工場の実績により W = 175 kg/m <sup>3</sup>				
(5) 単位セメント量(C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 175 \div 53 \times 100 = 330 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 330 \div 3.04 = 109 \text{ l/m}^3$				
(6) 空気量(A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 l/m <sup>3</sup>				
(7) 単位粗骨材量(G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.610 m <sup>3</sup> /m <sup>3</sup> 実積率 = 58.5 % $G_v = 0.610 \times 1000 \times 58.5 \div 100 = 357 \text{ l/m}^3$ $G = G_v \times \text{表乾密度} = 357 \times 2.71 = 967 \text{ kg/m}^3$ $G_1 = G \times 50.0 \% = 484 \text{ kg/m}^3$ $G_2 = G \times 50.0 \% = 483 \text{ kg/m}^3$				
(8) 単位細骨材量(S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 686 = 314 \text{ l/m}^3$ $S = S_v \times \text{表乾密度} = 314 \times 2.64 = 829 \text{ kg/m}^3$ $S_1 = S \times 70.0 \% = 580 \text{ kg/m}^3$ $S_2 = S \times 30.0 \% = 249 \text{ kg/m}^3$				
(9) 細骨材率(s/a)	$s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 46.8 \%$				
(10) 単位混和剤量(Ad)	Ad = C × 添加率 = 330 × 0.7000 % = 2.31 kg/m <sup>3</sup>				

## 配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
330	—	—	175	580	249	—	484	483	—	—	2.31	—	—
水セメント比	53 %		細 骨 材 率	46.8 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②		70.0:30.0 50.0:50.0			

備考